

様式2		令和2年度 清瀬市立清瀬第二中学校		学校評価表			
学校教育目標		愛情 より豊かな 心をつちかう 勤労 よりよくはたらき 責任をはたす る		学力 より深く 自ら学ぶ 健康 よりたくましく 心身をきたえ			
目指す学校像(ビジョン)		【目指す学校像】「笑顔とあいさつ そして ありがとう」があふれる学校 【目指す児童・生徒像】「自分で考えて行動する力」を持つ生徒 【目指す教師像】「生徒が主役であることを大切に、感謝を忘れず、教師であることを誇りに思う教員」		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動 ・生涯学び続ける力・人間性の育成 ・ふるさと清瀬を誇りにし、持続発展の主体となる力 ・生きて働く知識・技能の育成 ・考える力、判断する力、表現する力 ・育てたい4つの心「感謝する心」「自他の発言、意見を大切に作る心」「共に学ぶ心」「社会の中で活きている意識」 ・学校支援本部との連携			
前年度までの学校経営上の成果と課題		・学力向上において、各教科授業における帯活動は意識付けられているが、二中スタンダードについては、さらなる向上が必要である。 ・校内見回り等でいじめの早期発見につながり減少したが、不登校生徒の減少にはいたらなかった。外部機関等と連携してのさらなる取組が必要である。 ・学校からの情報発信が少なかったようであり、学校だより、学年だより、ホームページ等のさらなる活用が必要である。					
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価		次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価		学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
		取組評価	成果評価				
確かな学力の向上	授業の課題解決のために考える時間をとり、話し合い活動を通して、自分が学んだことを活用、表現する場面を設ける。	3	3	本年度は、感染症予防のため、年度の前半においては、協働学習を控えて学習を行ったため、生徒評価でも80%であった。後半になり徐々に各教科で、話し合い活動による学び合いを行い表現をする場面を設けたが、十分ではなかった。次年度は、今年の経験を生かして感染予防下でできる方法で進めていく。	本年度前半は、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校や短縮授業を行うなどの対応もあった。授業スタイルも対面をさけ、グループやペアワーク学習などの取り組みができず、教員も生徒も苦労があったと思う。対策を講じながら少しずつ工夫をしての協働学習をすることは、頑張っていると思う。	新型コロナウイルス感染症の対策を取りながらも、協働学習を各教科で実施し、自分が学んだことを相手に伝えよう学び合いをより進め、学ぶ力を育成する。	
	各教科小テスト、コンテストなどを行い、基礎基本の定着を目指した帯活動を取り入れる。また、家庭学習やICTを利用した授業を試みる。	3	3	臨時休業期間、HPや登校日を設けるなどで家庭学習への支援を行ったが、十分ではなかった。都学力向上調査の結果をみると、英語と理科において生徒数分布がふたこぶ化しているなどの傾向があり、次年度に導入されるICTの活用による学力向上等が課題である。	今年度より二ホムページの更新が頻繁になり、二中発信の情報が減え、保護者も地域の方々もホームページを見る機会が増えたという声を多数聞く。休校期間中も先生方が動画を作成したり、生徒への働きかけを行っていたと思う。検定については学校支援本部に運営を委託された事で、ワンデーサポートや学生ボランティアが入っている試験監督を行うことが出来た。	5教科での小テストや帯活動を継続し、各教科での作品やレポート等の掲示で生徒間で学びを深める。生活ノートの記録を通して家庭学習への意識を高める。次年度導入予定のICT機器を利用した授業を進める。そして漢検、英検等への参加をさらに促す。	
豊かな心の育成	学校行事や学年行事、学級活動、委員会活動、さらに授業展開において、生徒が主体的になるような指導を意識し、計画する	3	4	感染症予防のため、学校行事はすべて中止し、学年行事も精選して実施したため、生徒の活動場面が乏しかったが、生徒評価では90%を超えており、この状況の中、生徒会活動や委員会活動、学年行事などできるものに重点化したことが功をなした。次年度は感染予防を図りながら、行事を実施していく。	学校行事がすべて中止となった事は非常に残念ではあるが、これは感染症対策の影響なので仕方がないと思う。そのような中でも学校全体でおこなっていた運動会を学年別にし、感染症対策を講じながら取り組めたことは評価したい。	新しい生活様式に基づく、学校行事や学年行事、そして授業公開等を模索して、感染予防を図りながら、内容や方法を検討して、実施をしていく。	
	いじめ調査や学級環境適応尺度調査を実施して、学級経営や面談に活用する。	3	4	臨時休業期間もあり、面談計画を見直して、計4回の調査や面談にとどまったが、生徒評価ではどの学年も90%を超えている。しかし、生徒間トラブル等は発生しており、今後も早期発見、早期対応と特別の教科道徳を要として、学級経営の中でさらに豊かな心を育てることを目指す。	生徒同士のトラブルは見えるものと表にでないものがある。今はSNSを通してのトラブルが多くなっていると聞くので対応を充分に行ってほしい。	これからいじめの早期発見、早期対応を心がけるとともに、特別な教科道徳を要として、生徒たちの豊かな心の育成を進めていく。SNSに関しては生徒会が中心となって作成した生徒会SNSルールを利用した呼びかけなどを進めていく。	
健やかな体の育成	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。	3	3	本年度は、臨時休業期間と緊急事態宣言により、4カ月が部活動中止期間となり、十分に指導が行えなかった中でも、生徒評価は80%あり、実施できた満足感があった。次年度も感染予防や市による部活動指針に基づいて、活動時間も短いながらも効率的な練習を進めることが課題である。	部活動については中学校生活において大変大きなものと言える。今年度は感染症の影響もあり、充実した活動とはならなかったと思うが、生徒アンケートからは向上からは高評価となっており、学校側の工夫があったからその評価だと思う。教員の働き方改革について今までの部活動のあり方を改善していく方向にもなっていくのだろうか。	次年度は、清瀬市による部活動指針を基に、感染予防の対策をしながら、生徒や教職員の負担が大きくないような部活動時間の短縮や練習方法に取り組むことが課題である。	
	栄養士と協力した栄養に関する授業や食育に関する情報を発信する、また自分の生活を見つめる活動を実施する。	4	3	栄養士による授業や委員会と協力しての給食時間の活動により、給食残滓率を一桁に下げることができたが、生徒評価は80%にとどまった。臨時休業期間もあり、生活リズムに課題があったためと考えられる。生活ノート等の活用で自分自身の生活を見つめる取組をさらに続ける必要がある。	中学生にとて食育は大切な事だと思う。生徒に向けてもそうだが、家庭に向けても情報発信が重要。栄養士が動画を作成するなど広く発信していることは、すばらしい。	生徒と共に各家庭の意識も高めるためには、学校での活動についての情報発信を続けていくことが大切である。自分の生活を見つめる学活等での取り組みを継続することも必要である。	
特別支援教育の充実	特別支援委員会を中心とした情報交換や検討会を毎週実施し、外部のアドバイザー等によるカンパレンス等を実施する。	4	3	特別支援委員会を毎週実施し、委員会内での情報の共有を図り、アドバイザーを利用などの活動実施率は上がり、理解を深めることができた。しかし支援が必要な生徒は増加傾向にあり、教職員の達成度はBランクである。教職員全体でのさらなる情報共有や授業内での具体的な支援への方策が課題である。	特別支援委員会もばど校内で情報が共有され、その情報を元にした支援がスムーズになればと思うが、課題も多いのであろう。サポートルームとの連携、理解、学生ボランティアの活用(数学少人数、居場所作り)充実させて欲しい。	支援員等や学生ボランティアなどによる数学少人数などでの授業支援や居場所作りなどをさらに続け、サポートルームとの連携もさらに深め、授業内での支援について教員間の情報交換と理解を深めていく。	
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、ICTを活用するなどの学習方法や学習環境の取組を試みる	2	3	支援が必要な生徒個々の支援について、数学等での一部の授業では実施をしているが、今後広めればより効果的になる。またICTを利用した授業の実施率も教員により差があり、全体では50%ほどであり、さらなる利用が今後の課題である。	ユニバーサルデザインの視点については中学校区内の小学校どうまく連携し、小学校から中学校へ進むことに戸惑いがないようして欲しいと思う。ICTを利用した授業の活用については期待している。	支援が必要な生徒は増加傾向にあり、小学校からの支援方法の引き継ぎやサポートルームのさらなる充実が必要であり、支援員やボランティアの活用が課題である、また通常授業でのICTの活用も進めていく。	
本校の特色	学生や保護者・地域の方のボランティア活動を実施する。	4	3	感染症対策の消毒作業では、多くの人地域の方々のご協力をいただき5回以上の実施ができた。花ボランティアの方がいによる環境整備、また学生ボランティアによる学習支援もあつたが、保護者評価は80%であり、広報が十分でなかったと考えられる。今後も学校支援本部の協力を頂き継続していくことが、大切である。	学校と保護者の会、地域の方々をつなぐのが学校支援本部の役割。今年度はコロナの影響で思うような活動が出来ずにはいたが、消毒作業では青少年協の協力も得られ、保護者や地域の方々多数にボランティアに来ていただけた。生徒会とは生徒が通学する「青空通り」の清掃作業を一緒に行うことが出来た。来年度も感染症対策について学校側と相談しながら、出来ると良い。	学校支援本部の協力のもとに、環境整備等のボランティアの皆さんの参加を継続するとともに、様々な学校教育活動の中で地域の人材を活用する意識を持って取り組んでいく。	
	学校、学年だより等の発行と、HPを利用して情報発信をする。	4	3	学校だより、学年便り等の発行数は総計100号を超え、HPの更新回数については、週2回以上は達成することができた。しかし保護者による評価は80%であり、次年度も継続し、内容の充実も図ることが必要である。	学校だよりや特にホームページの改善が素晴らしいと感じた。ホームページは更新が頻繁で、今の学校の様子がよくわかり、ぜひ継続をお願いしたい。	次年度も、学校だよりや各学年便りの発行とホームページの更新を実施するとともに、内容の検討や充実を図っていく。	